

図像資料の提示が多様な推論の促進に及ぼす影響 －「参勤交代」に関する社会科授業の実践を通して－

Role of Presentation of Visual Materials in Promoting Various Inferences : In Social Studies Lessons on “Alternate Attendance by a Daimyo in Edo”

吉 國 秀 人* 山 内 敏 男**
YOSHIKUNI Hideto YAMAUCHI Toshio

本研究は、小学校児童を対象に、図像資料を再提示し改めて図像資料の意味づけについて複数の立場から問い直す授業実践を行い、「参勤交代」に関する多様な推論を導出することができるか、その手掛かりの一端を得ることを目的に行われた。対象は小学6年生39名であり、社会科にて「参勤交代」の学習を担当の先生と既に行っていた。事前調査では、藩主が藩ごとに大名行列を行ったことを確認できる手がかりが明記されており図も見て回答する条件下だったが、約6割の児童が「大名行列に大名が複数いる」という誤った解釈を導出していった。

授業実践では、図像資料として「津山藩大名行列図」が提示され観察した後に、授業終盤では「大勢の人で行列を目立たせたり、たくさんの武器で行列を目立たせると、誰が得をするか」という問い直しの発問がなされた。

ワークシートへの記述内容を分析した結果、参勤交代を大名統制の視点のみから捉えた者は少なく、得をした人について複数の異なる視点から思考していた者が半数以上見られた。また約7割の者が、得をした者として大名に言及していた。最後に、パースのアブダクションの推論の定式化を手がかりに、本研究の問い直しの発問の意義が論考された。今後の課題として、図像資料に表象されている事物、人物から、行為の意図に代表される社会関係を問うことが、多様なアブダクションの促進にとって有効かどうか、さらなる検討の必要性が指摘された。

キーワード：図像資料、推論、授業、参勤交代、社会関係

Key words : visual materials, inference, lesson, Alternate Attendance by a Daimyo in Edo, social relations

1. 問題と目的

本研究は、社会科の授業、特に歴史分野で提示される図像資料から児童が情報を読み取り、その情報に基づいた多様な推論活動が促進されるためには、どのような発問を組み合わせた援助が効果的なのか、授業実践を通して検証する取り組みのひとつである。

既に教育心理学において、社会科の歴史分野における学習場面に注目した先行研究は多数存在する。例えば、多くの大学生が江戸時代の日本を中央集権国家として誤って認識していることを指摘した麻柄（1993）や、大学生の反応を調査した結果に基づき「平安時代には武士は存在していない」、「江戸幕府は外国との交渉をいっさい禁じていた」などの誤解が存在し、それによって歴史認識の発展が阻害される恐れがあることを指摘した工藤（2001）、「明治政府の政策に抵抗したのはかつて敵対した旧幕府側の地域である」と誤った考えを有した大学生が多く存在しており、その修正にはルール命題の後件を具体化した象徴事例の提示が有効であることを明らかにした進藤・麻柄（2006）がある。さらに、吉國・山内・

前田（2017）や佐藤（2018）、山内・吉國・柴田・前田（2019）では江戸時代の参勤交代に関する不十分な認識が取り上げられており、小学生、中学生および大学生のいずれも幕藩体制という江戸時代の政治のしくみについての認識が十分とは言えない実態が示されている。このような諸研究の結果に基づけば、自然系領域の理科のみならず、社会系領域の社会科の学習においても、広く学習者が多種の誤った知識を有していたり不十分な認識に基づいた判断を行っていることが推測される。さらに近年、社会科の問題解決場面に注目し、学習者がどのような推論を展開しているのかという推論過程の詳細を明らかにしようとする研究もなされている。例えば、佐藤・工藤（2020）は、大学生を対象にして、コロンブスに関する事実に知識を相互に関連づける授業を行った結果、西インド諸島の位置を問う課題（「コロンブス問題」）の解決における歴史的事象の推論が促進されることを明らかにした。このように近年は、社会科の学習内容に注目して学習者の誤認識や推論過程を明らかにする研究が、教科教育学のみならず教育心理学にお

*兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻教育コミュニケーションコース 教授

令和3年10月21日受理

**兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻社会系教科マネジメントコース 准教授

いても進められるようになっていく。

本研究で取り上げるのは、参勤交代（児童に示す際には主に「大名行列」を使用）である。筆者らのこれまでの研究、吉國・山内・前田（2017）、山内・吉國・柴田・前田（2019）、山内・吉國（2021）において扱った事象である。取り上げる意義について改めて説明すると、将軍への服属儀礼がその本質であり（山本1998, p.29）、挨拶や奉仕、大名自らの権威と将軍の権威の誇示を達成するために、1年おきに大名の領地と江戸とを往復する制度で、参勤交代に関わる費用を（江戸幕府ではなく）各藩が捻出せねばならなかったという点で大名にとっては支出がかさむ一方、大名の序列を決定づける大きな要素として位置づけられていたという特色をもつ。つまり、大名行列を取り上げてその意味づけを図ることは「幕藩体制の仕組み」を学習することに他ならず、小学校学習指導要領解説社会編、第6学年、内容の取り扱い(2)ア(キ)において「江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること」と示されるなど（文部科学省、2017, p.107）、近世社会の特徴的な事象として学習されることが目指されている。したがって、学習目標は、「参勤交代の行列をりっぱに見せることで、大名自らの権威と徳川（将軍）家の権威を示そうとしたこと」と設定できる。

このような社会科の学習場面における児童の誤認識や推論過程に注目した教育心理学研究の流れ、社会科授業としての目標を考慮する中で、山内・吉國・柴田・前田（2019）の学会発表では、中学生を対象とした実践研究1と小学生を対象とした実践研究2に基づいて、江戸時代の「幕府と大名双方の（領民や見物人も含めた）関係から事象の意味理解を促進していく」ことの重要性が示された。そして、教材として提示された津山藩「大名行列図」に表されている行為の意図、意味を発問として児童生徒に問い直すことは、江戸時代の「幕藩体制における統制のあり方を複数解釈する手がかりとなる」可能性を有するのではないかと、図像資料とともに行った発問の意義についても指摘を行った。他方、山内・吉國・柴田・前田（2019）の学会発表時の討論結果に基づけば、図像資料の津山藩「大名行列図」を観察した後、教師が行った発問、具体的には「沢山武器を並べ行列し、わざわざ多くの家来を引き連れた行列にしてある、この理由」を問い直す発問が、教師のみならず児童自身の問いにもなり得ていたのかについて、慎重に再吟味する必要性があると考えられる。

そこで本研究では、児童に理由を直接問うタイプの発問ではなく、新たに江戸時代において「誰が得をするのか」という視点から、新たに問いを作成し直した。授業で図像資料を観察した後に、この「誰が得をするのか」と

発問をすることによって、参勤交代制度への意味づけを複数の立場（例：将軍、大名など）への関係づけから考えるきっかけが与えられ、結果として児童らが、幕藩体制における統制のあり方について多様な推論が可能となることが期待される。

本研究は、小学校児童を対象に、すでに社会科で学んだことのある図像資料を再提示し改めて図像資料の意味づけについて複数の立場から問い直す授業実践を行い、「参勤交代」に関する多様な推論を導出することができるか、その手掛かりの一端を得ることを目的とする。

2. 方法

対象：〇市小学校6年生39名。本研究の対象児童らは、手続きの項で後述する「授業後の情報収集」を通して、本研究の授業実践の前に、次の2つの関連した学習経験を有していたことがわかっている。ひとつめは、6年生社会科の教科書を用いて、江戸時代の政治の仕組みのひとつとして「参勤交代」の学習を、担任の先生と行っていたこと。二つめは、教科書外の資料として、岡山県の津山郷土博物館が所蔵する『拾万石御加増後初御入国御供立図』をほぼ実寸大でビニールシートにカラーコピーした巻物教材（以下、「津山藩大名行列図」と呼ぶ）に担任の先生らが注目し、「津山藩大名行列図」を縮小して白黒コピー用紙7枚分につなげた手作り教材（以下、「ミニ行列図」と呼ぶ）を用いて、津山藩の大名行列の様子を調べる学習も行っていたことである。

手続き：本実践研究は、事前調査→授業実践→授業後の情報収集という構成であった。なお、本研究を行うにあたっては、第一著者が学校長と担任の先生と事前面談を行い、授業実践研究を行う目的について文書および口頭にて説明を行い、許可を得た。授業記録の許可も得られており、授業記録内では児童は全て匿名で記載し、授業に参加した児童が特定されないよう十分な倫理面の配慮がなされている。なお、作成された授業記録の記述に関する全ての責任は、第一著者にある。

以下では、調査及び授業の実践について概要を説明する。

(1) 事前調査

参勤交代に関する内包課題：吉國・山内・前田（2017）とほぼ同一の課題である。新たに、リード文を「下の絵はあるひとつの藩で行われた大名行列の様子を表しています」と微修正し、課題を解くときの手がかりとする絵が、一つの藩で行われた大名行列のイメージ図であることを明示した。大名行列のイメージ図を見ながら、6つの小問（例：「この行列の中には、大名たちが複数います」[×を正答とした]）に正誤の判断を求めた。小問ごとに、正しいと思うものは○、間違っているものは×、わからないものは？を回答欄に記入してもらった形式であった。

参勤交代の構造説明課題: 山内・吉國・柴田・前田 (2019) と同一の課題である。2016年発行の小学校6年社会科教科書(日本文教出版)に示されている「江戸幕府による政治」に関する図のコピーを、「江戸に向かう加賀藩(石川県)の大名行列のようす」という解説文と併せて提示した。その上で、参勤交代が行われた目的について、記号選択式で回答を求めた。課題は、小学6年生から江戸時代の参勤交代について質問を受けたという文脈のもとで、①近くの藩の大名らが集まり、いくつもの藩の大名がひとつの行列を組んで江戸へ向かったのか、あるいは、②ひとりの大名が家来を率いて行列を組み、藩ごとに別々の行列として江戸へ向かったのか、自身の考えにあうものを選んで○をつけてもらう形式であった(②を正答とした)。また、そのように考えた理由も自由記述で求めた。

(2) 授業の実践 (1時間)

第一著者がクラス担任の協力のもと、共同で研究授業「参勤交代」を1授業時間(45分)実施した。授業では、津山藩の「津山藩大名行列図」を観察し学習することに

よって、2つの教育目標の達成を目指した。具体的には、江戸時代の大名は①参勤交代で江戸にいる将軍にあいさつし、江戸で将軍のために仕事をしたこと、②参勤交代の行列をりっぱに見せることで、大名自らの権威と徳川家(将軍)の権威を示そうとしたこと、これら①と②を、具体的に理解(実感)させることを教育目標とした。この目標の達成を実現するための授業プランを、主に4つの発問と1つのお話で構成した。プランの概要を表1に示す。

表1に概要を示した本研究の授業プランは、山内・吉國・柴田・前田(2019)の研究2で小学6年生に実践したプランをもとに、主に次の2つの点で修正した内容であった。修正の1つめは、「津山藩大名行列図」の詳細を観察する前の発問2について、児童が予想する観点を、「この大名行列の中に、大名は何人いるか」のひとつだけに絞ったことである。これは、行列全体の人数は予想させるのではなく800人程度と情報を提示した上で、そんな大人数の家来を率いているたった一人の大名の存在に児童の興味をより向けさせようと意図して修

表1 授業プランの概要

No.	発問または教示の概要
発問1	岐阜県「関ヶ原」の博物館や交流館へ行きました。1600年の「関ヶ原の戦い」の様子が、いろいろと体験しながら学べる場所です。前の写真を、見てみましょう。(1)この若い武将と年とった足軽は、武器は何を持っていますか?(2)この武将と足軽の姿は、どちらが「徳川家康の軍」でしょうか。どこを見て、そう考えましたか?
お話し	【江戸時代の参勤交代】 関ヶ原の戦いで勝利をおさめた徳川家康は、将軍となって江戸(今の東京)に、幕府をひらきました。江戸時代に全国の大名は、1年おきに江戸にやってきて、将軍にあいさつをし、江戸で将軍のために仕事をしました。これを「参勤交代(さんきんこうたい)」といいます。参勤交代で江戸にやってきた大名は、1年は江戸で暮らしました。妻や子どもが江戸にいたのです。その後、地元に戻ると自分の藩で1年暮らしました。そして翌年は、また参勤交代をしたのです。参勤交代では、大名はたくさん家来を引き連れて旅をしました。これが、大名行列です。
発問2	巨大な巻物を広げてみよう。 これは、江戸時代に津山藩(岡山県)の松平家の大名が、参勤交代の際におこなった大名行列の様子を描いています。くわしく見る前に、予想してみよう。 この大名行列は、全部で約800人です。 この大名行列の中に、大名は何人いるだろうか?
発問3	大名行列には、どんな武器を持っている人がいますか?武器以外のものを持っている人はいるかな?どんな仕事の人がいるだろうか?大名行列の巻物に描かれている人々の様子や持ち物を見ながら①気づいたこと ②不思議に思ったことを、たくさん挙げてみましょう。
発問4	地元の藩をおさめた主、たったひとりのリーダーが大名です。(津山藩(岡山県)の大名行列では、どのあたりにいたかな?)大名は、「参勤交代」で江戸城の将軍に会ってあいさつするのに、こんなに大勢の家来をひきつけた行列の支度を整えました。大名がこのようにたくさん武器をならべ、わざわざ多くの家来を引き連れて行列をしたのは、どうしてだろう。 (1)この行列の大名は、何人の家来を連れていきますか?将軍に命じられた数(約240人)より、ずっと大勢を引き連れ行列しているぞ。このように、大勢の人で行列を目立たせると、誰が得をするだろうか?どうしてそう思いましたか? (2)ヤリは、そのままではなくてカバーでつつんで持っているね。たくさん武器にきれいなカバーをかけて行列すれば、目立って見える。このように、たくさん武器で行列を目立たせると、誰が得をするだろうか?どうしてそう思いましたか?
発問5	5.今日の授業で、江戸時代の「参勤交代」について学んで、あなたが「①わかったこと」や「②もっと知りたくなったり、不思議に思ったこと」について、自由に書いて下さい。

正した。修正の2つめは、「津山藩大名行列図」を改めて見直す授業終盤の発問4について、大勢の人で行列を目立たせたり、たくさんの武器で行列を目立たせると、誰が得をするかと問い直す発問内容にしたことである。これは、山内・吉國・柴田・前田(2019)で重要視されている視点、具体的には「大名行列、参勤交代の制度を幕府が大名に対して行ったことの意味に限定するのではなく、大名の立場からみてどう意味づけられるかを問う」という視点を、より一層明確に意図して、「幕府と大名双方の(付け加えるならば、百姓・町人といった他の身分も含めた)関係」から制度の意味理解が促進されるような発問内容となるように修正を行った。児童には、この2つの修正を行った授業プランに沿ったワークシートを配布し、授業後に提出してもらった。また発問5の「①わかったこと」、「②もっと知りたくなったり不思議に思ったこと」についての記述も、授業後にワークシートと併せて提出してもらった。

授業内で用いた教具としては、1.「津山藩大名行列図」を提示し、詳細を観察する活動を行った。併せて2.関ヶ原の戦いに関する写真、3.「江戸一目図屏風縮刷版」(原典:津山郷土博物館)も用いた。

(3) 授業後の情報収集

研究授業の前に実施されていた授業、すなわちクラス担任により実践されていた授業の概要を知るために、クラス担任に情報提供をお願いした。クラス担任授業時の板書の写真等の情報提供がなされた。さらに、研究授業を振り返った内容を記した児童からの手紙(無記名)のコピーも、クラス担任から第一著者へ届けられた。

実施時期:上記手続きのうち、(1)と(2)は2019

年11月、(3)は2019年12月に実施された。

3. 結果と考察

(1) 事前調査について

参勤交代に関する内包課題の結果について、小問1から6までの正答者数と割合を表2に整理して示す。

表2のように、6つの小問題のうち4つについては、正答率が7割から9割程度と高かった。参考までに山内・吉國・柴田・前田(2019)の実験2の事前調査結果と比較しても、ほぼ同等かそれ以上の正答率である。他方、小問2と小問3、具体的には「行列に大名が複数いるかどうか」「行列の棒は武器かどうか」という課題では、前学会発表と同様に、事前に誤った認識が多く見られ正答率が十分ではなかった(小問2が46%、小問3は8%の者が正答)。

次に、参勤交代の構造説明課題について、「参勤交代は、藩ごとに別々の行列たてた」と正しく②を選択した者は64%と約6割であった。山内・吉國・柴田・前田(2019)の実験2の結果とほぼ同様で、十分高いとは言えなかった。誤答の選択肢を選んだ理由には、例えば「大名行列だから大名は何人もいると思ったから」などの記述が見られた。

続いて、大名行列は藩のリーダーである大名が家来を率いているという構造をどの程度理解しているかを調べるために、「参勤交代に関する内包課題の小問2(概要:行列に大名2人いるか?)」と「参勤交代の構造説明課題」の2つ問いへの正誤反応をクロス集計して分析した。結果を表3に示す。2つの課題に両方とも正答だった者(タイプa)は、16名(41%)と約4割に留まっ

表2 参勤交代に関する内包課題の正答者数と割合(カッコ内数字は%)

小問番号	1	2	3	4	5	6
設問の特徴	時代について	参勤交代制度の意味的側面			参勤交代制度の外形的側面	
小問の概要	江戸時代か(○)	行列に大名2人いるか(×)	行列の棒は武器か(○)	行列に奥さんいるか(×)	2年に1度江戸に向かったか(○)	お金ない年は許されたか(×)
正答数(割合)	36(92.3)	18(46.2)	3(7.7)	33(84.6)	33(84.6)	29(74.4)

表3 行列中の大名について問うた課題間のクロス集計結果(授業前)

参勤交代に関する内包課題小問(2)	参勤交代の構造説明課題	反応数	%	タイプ
○	○	16	41	a
○	×	2	5.1	b
×	○	9	23.1	c
×	×	12	30.8	d
計		39	100	

た。本研究の調査課題には、いずれにも「ある一つの藩で行われた」というリード文や、「加賀藩の大名行列」という解説文のように、藩主が藩ごとに大名行列を行っていたことを確認できる手がかりが、問題文中に明記されていた。さらには、図も見ながら回答することができる課題形式でもあった。このような条件の下であっても、6割程度の児童は、「大名行列に大名が複数いる」という誤った解釈を、特定の課題の判断の際には導出してしまおう状態だったといえる。

(2) 授業の様子およびワークシートに記載された概要について
授業前半部分において、参勤交代のお話を全員で読

み言葉による解説を行った後、図像資料の「津山藩大名行列図」全体を見ながら行列内の大名の人数を予想した場面（発問2）の結果を、表4に示す。

「江戸時代の参勤交代」についてのお話しを読んだ後に、「津山藩大名行列図」の詳細はまだ観察していない発問2の時点で、行列内に大名は1人だけいることを、正しく予想してワークシートに記載できていた人は、35名(89.7%)で約9割と多かった。大名が複数(「3人」「4人」「7人」「20人」)いると予想した記述は4名だけに見られた。

次に、授業中盤から終盤にかけての様子を表5-1および表5-2に示す。

表4 授業前半の発問2で、大名行列図に大名は何人いるか予想した結果

ワークシート回答	反応数	%	事前調査時のタイプ
1人いる (○)	35	89.7	a,b,c,d,
3人いる	1	2.6	c
4人いる	1	2.6	a
7人いる	1	2.6	d
20人いる	1	2.6	c
計	39	100	

表5-1 授業終盤での教師と児童とのやり取りの様子 (その1)

授業終盤での教師 (T) と6年児童 (C) とのやり取りの記録 (概要)
(発問3 巻物の観察活動の最後場面)
T:不思議に思ったこと、どなたか。ひとりか、ふたり・・・。
T:みんなに、こんなん、書いたよって、教えてあげて。
C 1: (男児) なぜ、銃をすぐに打たせないのか。
T:はい、なぜ銃をすぐに打たせないのか。
T:ちょっと遠いけど、立ち上がって見える？これです、銃って。・・・この赤いやつ。
T:すぐ打たせないって思ったのは、どういう風な様子だから、すぐ打たせないって思った？
C:なんか、布みたいなのかぶさってるから。
T:はい、赤い布みたいなのがかぶせてあるから。すぐは、(銃が)打てない。
T:赤い布ですぐは打たれへんけど、赤い布できれいにしていると、何かいいことってありそう？なさそう？
C:ありそう
T:どんな
C:この藩は攻撃せえへんって。
T:この藩は攻撃しませんよって、打ったりしませんっていうアピールになる。
C:あー
T:あと、見栄えとかどう？
C:目立つ
T:目立つねえ
T:あと、赤い布だったら？
C:きれい
T:きれいだったりするよね。
C 2: (女児) 着物の色がなんでちがうか。
T:なんかちがうってどこがちがう？例えば？
C: (女児が具体的に巻物の場所を指さしてくれて) ここ
T:このへん、着ている色がちがう、ちょっと緑っぽいね。あっちのほうは、何色っぽい？
C:・・・ (レコーダーの音が聞き取りにくい)
T:そうだね、黒とか、かごの周りの人、黒いの着てたりする。何か、仕事によってとか、身分によって、着物の色がちがってそうだね。
T:みんないっぱいあげてくれて、僕も色々 (みんなの意見を) 聞きたいけど、後で (ワークシートを) 見せてもらおう。

表 5-2 授業終盤での教師と児童とのやり取りの様子 (その 2)

授業終盤での教師 (T) と 6 年児童 (C) とのやり取りの記録 (概要)	
(表 5-1 の授業記録のすぐ続きの場面)	
T:	(ワークシート) 4 ページ . . .
T:	地元の藩をおさめた、たった一人のリーダーが大名でした。津山藩の大名行列ではどのあたりにいましたか?
T:	先頭か、真ん中か、一番うしろか。
C:	真ん中
C:	真ん中
T:	真ん中あたりでしたね。しかもたった一人です。このかごに乗ってました。
T:	(巻物を指さして) ここね。みんなが、密集してるっていつてくれた。
T:	. . . (発問 4 を読む) . . . ひきつれて行列したのは、どうしてだと思いますか?
T:	この行列の大名は、何人の家来をひきつれていくことになりますか?
T:	ここ大体 800 人おるんやけど
T:	大名は?
C:	1 人
T:	だからそれ以外は?
C:	家来
T:	799 人くらいはみんな家来。799 人くらいの家来を連れて行ったんやけど、次を見てください。
T:	この 10 万石の津山藩くらいは、將軍は約 240 人くらい連れてきたらいいよ、家来を、っていう風に命じています。
T:	さっき言ったように 799 人の家来は、240 人よりもずっと多いよね。
T:	言われたよりもずっと大勢の人で、行列を目立たせているんですけど、こんな行列をすると得する人は誰でしょう?
T:	. . . (ワークシートを書きながら考えてもらう) . . .
T:	言ってくれる人いない? .
C1:	大名と將軍が
T:	大名と將軍が得する、はい。將軍も得すると思ったのは、どんな考えで?
C:	いやなんか、いっぱいおったら、. . . から . . . (レコーダーの音が聞き取りにくい)
T:	ああ、自分 (將軍) のもとに来てくれる人がいっぱいおったら、守ってくれる。
T:	ほかに?
C2:	大名が得する。
C:	大勢いると (休憩時間の校内放送とかぶる) . . . 力が
T:	はい、力を持っている大名だなんてみんなが見てくれるから、大名が得する。
C:	はい、ありがとう。

(記録概要, ここまで)

表 6-1 行列を大人数で目立たせると誰が得するか? (発問 4 (1) に対するワークシート内の回答概要)

大人数で目立たせると得すると思った人物	人数	%
大名	7	17.9
將軍	4	10.3
幕府 (徳川)	3	7.7
宿の人	1	2.6
行列の中の人	1	2.6
その他	1	2.6
大名 & 將軍	13	33.3
大名 & 幕府 (徳川)	3	7.7
大名 & 家来	1	2.6
大名 & 宿の人	1	2.6
將軍 & 徳川	1	2.6
將軍 & 家来	1	2.6
大名 & 將軍 & 家来	1	2.6
大名 & 家来 & 医者	1	2.6
合計	39	100

表 5-1 のように、「津山藩大名行列図」を観察した後、児童から不思議に思ったこととしては、「なぜ、銃をすぐに打たせないのか」、「(女兒) 着物の色がなんでちがうか」が発言として出された。続いて、表 5-2 のように発問 4 でのやりとりでは、終了時刻が迫っていたた

表 6-2 行列をたくさんの武器で目立たせると誰が得するか? (発問 4 (2) に対するワークシート内の回答概要)

武器で目立たせると得すると思った人物	人数	%
大名	27	69.1
將軍	1	2.6
幕府 (徳川)	1	2.6
家来	1	2.6
行列の中の人	1	2.6
その他	1	2.6
敵	1	2.6
空白	2	5.1
そこの藩	1	2.6
大名 & 將軍	1	2.6
大名 & 家来	1	2.6
大名 & めいよ	1	2.6
合計	39	100

め、発問 4 (1) だけを取り上げ、大名行列を大人数で目立たせて「得をした人」を考えてみたところ、「大名と將軍」(理由:自分 (將軍) のもとに来てくれる人がいっぱいいたら、守ってくれるから)、「大名が得する」(理由:力を持っている大名だとみんなが見てくれるから)

と2名が発表した。「津山藩大名行列図」内に描かれている「大名」(正確には、大名の人物像は描かれていない、大名が乗っている「カゴ」が描かれている)の存在のみならず、図像資料には描かれていない将軍へも内的に関連づけて児童が発表してくれたことが推察される。

さらに発問4のワークシート内に児童が書き込んでいた記述を整理し、表6-1および表6-2に示す。

表6-1より、参勤交代制度を大名統制の視点のみから捉え「将軍」を単独で挙げたのは4名と決して多数派で

はない。むしろ、先の児童の発言「大名と将軍」のように、「得をする人」が複数の異なる視点から思考していたと推察される学習者が39名中22名と半数以上見られる。また図像資料内には直接描かれていない「幕府」や「宿の人」という対象にまで関連付けて、参勤交代の制度の意味づけを考えた児童も見られる(授業で扱えなかった発問4(2)にも、表6-2のように「めいよ」という言葉を挙げた児童もいた)。

次に、授業後の児童の感想について、まず、「①わかっ

表7-1 授業で「わかったこと」(その1)

No.	振り返りシート①	No.	振り返りシート①
1	【女性】 じょせい一人もいないこと 【大名】 大名のちかく20人ひとりがまつて 【金】 金をもってはこんで	11	【大人数】 すごい数の人がいること。 【装飾】 いろんな形なやりのカバーがある。
2	【幕府】 徳川家康は江戸に幕府をひらいた 【大名】 全国の大名は1年おきに将軍にあいさつをして仕事をする 【大名】 大名行列では、大名だけ真ん中にいる	12	【大名】 大名が真ん中に居ること 【武器】 やりの形はたくさんあること 【大名】 大名の周りに人がたくさんいること
3	【一人】 1人の中にはいっている人に多くの人が守っている(全員武器持ち) 【大名】 大名のカゴだけが一番でかい 【長い棒】 遠くにの人に合図するための長い棒?みたいな物を持っている。	13	【大名】 大名は1人 【武器】 弓や鉄砲を持っている 【品】 お風呂もはこんでいた
4	【大名】 大名をまんにいてまわり人に集めてしっかり守れるようにしている。 【服】 藩(*くさかんむりがない)はいっしょなのに服がちがうのはなぜとおもっていたけど仕事の役によってちがうと分かった。 【品】 日用品やおふろももっていつている。	14	【医者】 大名行列の家来で、医者などもついてきていること 【品】 前まで何というものが分からなかったものがなんというかわかった 【大名】 大名の他にもかごに乗っている人がいる。
5	【大名】 大名は1人 【武器】 ゆみやをもっている 【親族】 しんぞくがのっている	15	【武器】 いろんな武器を持っている。 【医者】 医者はぼうずにされている。 【大名】 大名が入っている箱は、ほかの箱より立派
6	【大人数】 大名行列では、たくさんの方がうごいてる。 【江戸幕府】 得をするのは、江戸幕府だけではなくだった 【藩】 1年で江戸にきてまた1年たったら、自分の藩にもどることはたいへんだと知った。	16	【大名】 大名は1人だけいる。 【品】 日用品なども生活に必要なものが乗っている。 【大名】 大名のかごは窓(?)が開いていない
7	【服】 みんなかさの帽子を頭にかぶっている。 【大名】 大名は真ん中にいる。 【金】 大名は藩のお金をたくさんつかうことになった。	17	【大名】 大名を大切に守っている 【大名】 自分が死んでもいいから大名を守るみたいな所があった 【武器】 じゅうをすぐうてないようにしている
8	【金】 参勤交代でもお金がかかるんだと分かった。 【大人数】 約800人の行列があるんだと分かった。 【妻子】 つまや子どもは、江戸にいたのだと分かった	18	【大名】 大名さんは一藩に一人しかいない(家来は823人もいるのに) 【品】 お風呂まで運んでいる 【妻子】 女性や子どもは江戸にいる 【大名】 大名さんが乗る馬だけおしゃれ
9	【大名】 大名がいる所はまわりにたくさんの方がいる 【大名】 大名が入っているかごは大きい 【大名】 大名以外にもかごに乗っている人がいる 【品】 お風呂や生活に必要なものを運んでいる 【武器】 武器の種類で分けられている。 【装飾】 人が乗る馬には動物の皮がかけられているものがある。	19	【大名】 大名は一人 【徒歩の人】 歩いている人は、はだしで足の甲につけてる 【装飾】 武器にカバーをつけている
10	【金】 たくさんぶきやものをもっていけば金をつかう 【大名】 大名の近くにたくさんの方がいる 【人足】 はだかの方がいる	20	【大名】 大名は真ん中にいる 【馬】 馬も荷物を運んでいる 【金】 金が大量にある

たこと」を表7-1および表7-2に整理した。表内には児童の記述内容とともに、その概要を表現するキーワードをラベル付けして【】内に示した(例:【女性】、【大名】、【金】)

表7-1と表7-2の授業でわかったことの記述内容(複数回答可)について、最も多くの児童が注目していたキーワードは何かを調べたところ、39名中31名が【大名】とラベル付けされた内容に言及しており、最多であった。他には、【装飾】とラベル付けされた内容に言及した者が15名、【品】とラベル付けされた内容が11名、【武器】とラベル付けされた内容が10名分見られた。

次に授業後に、児童がもっと知りたいことや不思議に思ったこととして記述した内容を、表8に整理した。

表8に示されているとおり、39名全員の児童がわかっ

たことのみならず、少なくともひとつはさらに知りたくなったり不思議に思ったことを記載していた。本研究の児童らは、既に先行して白黒の小さいサイズで同一内容の「ミニ行列図」を画像資料として学習済みであった。そのような条件下であったとしても、カラーの「津山藩大名行列図」の教材を詳細に観察しつつ、発問4に代表されるような参勤交代に対する新しい意味づけの可能性を考える場を通して、児童らは新たな驚きやさらなる新しい発見を創出していたことが示唆された。

4. 討 論

本研究では、既に先行して江戸時代の参勤交代についてミニ行列図を用いて学習していた児童を対象に、(大きさ等は異なるが)同一の「津山藩大名行列図」を再提

表7-2 授業で「わかったこと」(その2)

No.	振り返りシート①	No.	振り返りシート①
21	【大名】大名が一人(し)かいない 【装飾】ぶきにはかばーをつけている 【人足】はだかの人がいる	31	【大人数】大名行列はおよそ800人の行列だった 【大名】大名行列の中に大名は一人しかいない 【家紋】徳川のマークは三葉だった
22	【大名】大名は真ん中にいる 【装飾】熊の毛のカバーがシンボルマーク 【品】日用品をもっている人がいる	32	【大名】大名はまん中にいる 【武器】武器を持っている人がたくさんいる 【武器】馬に乗っている人のよこに武器を持った人がいる
23	【装飾】うまのカバーがいろいろあった 【服】大名のふくのいろがちがうとおもった 【その他?】えどじだいのにしたいこと	33	【装飾】武器はカバーがついていること 【ほうび】江戸にきたごぼうびがあること(ごぼうびはわし) 【家紋】大名ためのおふろにマークがある
24	【警備】かごの中に入っている人の周りを多くの人が守っている(全員武器持ち)。 【武器】武器の場所が、種類ごとに分けられている。 【大名】大名が乗る馬はきれいにしている(ひょうがらみたいな布をかぶせている)。	34	【装飾】やりには黒の布・鉄砲には赤の布をつけている。 【大人数】約800人くらいの人がある 【家紋】おふろにも徳川のマークがついている
25	【大名】大名がまん中の箱に入っていてその周りは人が多くかたまっている 【装飾】ぶきなどを布でおおっている 【品】日用ひんなどを多く持っている	35	【藩】参勤交代は、自分の藩を目立てるから、藩(*原文はくさかんむり無し)は反対しなかった。 【大名】大名は真ん中において、参勤交代してる。 【服】部隊ごとに服装がかわってる。
26	【装飾】刃ややりなどにはカバーがついている 【鷹】たかをもっている人は、牛尾九郎兵衛というたか師 【大名】大名が入るかごは大きくて人が周りにたくさんいる	36	【装飾】大名行列の中には、武器を布や毛皮でかくしているものがあること(*原文ママ) 【服】家来の人の服はいろいろな色があるということ
27	【大名】大名ののっているのだけ大きい 【大名】大名の近くだけ密集している 【品】雨具を干すやつを持っている人がいる	37	【装飾】じゅうにぬのをばくせてごうげきしないということをアピールスル(*原文ママ) 【武器】矢のいれものがある 【品】長持をもっている
28	【装飾】武器にカバーをつけて目立つようにしていること 【服】身分や持ち物によって服装が変わる 【大名】大名のまわりには人があつまっている	38	【大名】かごの中にいる人は大名や身分の高い家来 【装飾】鉄ぼうややりには布がかかっている 【大名】大名がのる馬は布がかかっている
29	【大名】大名ができるだけとくするようになっている 【大名】大名はしっかり守られている 【品】荷物が多い	39	【大名】大名は一人で行列のまん中においてそだけ人がかたまっていてとても守られている 【武器】ほとんどの人が「やり」を持っている人がいた
30	【装飾】やりにかバーがついていることがわかった 【装飾】鉄ぼうにかバーをつけてたかわないよとアピールしてることがわかった 【大名】大名のまわりに人がたくさんあた(*原文ママ)		

表8 授業で「もっと知りたくなったり不思議に思ったこと」

No.	今日の授業で「参勤交代」を学んで、もっと知りたくなったり不思議に思ったこと	No.	今日の授業で「参勤交代」を学んで、もっと知りたくなったり不思議に思ったこと
1	●ぶきをいろいろなふくろにいれている ●うまがにもつをはこんでいる	21	●なんでうまにのる人とのらない人がいるの？ ●なんでめだちたがるのか？
2	●なぜ大名は1人なのか ●なぜ大勢を引きつれて行列をしたか	22	●なぜ大名は大名行列をするたびに費用がかかるのにやっているのか？ ●大名は大勢の家来を引きつけて力を見せつけているが、力を見せつけてどうしたいのか？
3	●ところどころに白い馬・黒い馬はふつうの馬と何がちがうか知りたい ●お金はどこにある？(だれが持っている？)	23	●やりてたかいかにつかてたかうもの(*原文ママ) ●てっぽうはたかかものでもある
4	●ワークシートにもかいていたけど240人よりもずっと多い800人をつれていることが不思議に思った。お金も人数が多い分かるのに ●大体の人は服を着てもものもったりしているのにフンドシ姿でもものもっている人が前らへんにいること	24	●白い馬や黒い馬などいろんな種類の馬がいるのはなぜ？ ●着物の色がちがうのはなぜ？
5	●なんでやりをカバーでつけるのか ●カバーをめだちやすい色にしたのか	25	●どうしてこんなに多い人数なのか
6	●なぜ「参勤交代」をやめなかったのか	26	●なぜ服をきていない人がいる？ ●なぜ馬にのっている人の周りには、二人ずつ人がいる？
7	●どうして参勤交代で大名は藩のお金をたくさんつかうことになったのか ●なぜ参勤交代で江戸で一年くらし、地元に戻って自分の藩で暮らすのか？	27	●トラとかの動物を馬にかけている ●着物の色がちがう
8	●なんで女がいないのかと不思議に思った ●なんでみんな帽子をかぶっているんだと思った	28	●馬に乗っていた人はどういう身分の人なのか ●なんで一列で並んでいるのか
9	●なんで服を着ていない人がいるのか ●なんで服の色がちがうのか ●なんでくつをはいていないのか ●足軽はなにか	29	●なぜ一列なのか ●なぜ多くの人がいるか
10	●なぜ馬をもっていくのかわからない ●なぜはだかなのかわからない	30	●ヤリのカバーの形にしみがあるのかが知りたくなった ●なぜ持っているものによって服の色がちがうか
11	●お金はどんくらいかかるのか	31	●大名行列を上空から見るとどうなっているのか ●大名行列は最高で何人の行列なのか
12	●大名行列の移動速度 ●なぜ大名を馬や動物で運ばないのか	32	●ぼうしをかぶった人がなぜたくさんいるのか ●大名行列はなぜまがっているのか
13	●費用がたくさんかかるのになぜ参勤交代を止めなかったのか ●家来の数が多いのはなぜ？と思った ●きれいなカバーをつけているのは？←おしゃれがしたかったのか？	33	●色いろな形のカバーがあるけど形がばらばらな意味はあるのか ●カバーは何種類ぐらいあるのか
14	●大名行列にはどのくらいお金がかかったのか ●なぜ槍のカバーには色々種類があるのか	34	●なぜ「大」とかかれたかさや馬についている紙があるのか
15	●みんな三角の帽子をかぶっている ●月の形をしたものに棒が差してある	35	●大名はどうやって宿泊先ですごしたのか ●一回の参勤交代でいくつの費用がかかったのか
16	●最後の方だけ、馬に乗っている人がなぜ多いか ●大名以外のかごは医者他にどんな人が乗っているか	36	●大名行列がなぜ長い間つづいていたのか ●家来の人数をなぜ指定された人数の3倍近くまで増やしたのか
17	●ほかの藩の行動 ●はだかの人がおる	37	●大名ぎょうれつでなぜふんどしの人がいるのか不思議に思った ●なぜ馬にのっているのか
18	●馬の色はなぜちがうの？普通の馬とのちがいは？ ●服(着物)の色は何でちがう？	38	●持っている箱が青色とむらさき色に分かれていること ●二本刃を持っている人がいる
19	●刀を二本もっている人がいたのはなぜか ●なぜ歩いている人は、はだしなのか	39	●これまで何回も参勤交代をしてきてこれまで何人の人がやってきたのかに気になる ●なぜ馬だけのためにキレイな布をかぶせるのか
20	●なぜ道具に家もんはついているのか ●なぜヤリか武器に布やかざりをかぶせているのか		

示し改めて図像資料の意味づけについて問うことを取り入れた授業実践を試みた。

事前調査時には、6割程度の児童が、特定の課題の判断の際に、図像資料について「大名行列に大名が複数いる」と誤って解釈する状態であった。

授業前半では、参勤交代制度をお話して解説した後、カラーで大型の図像資料を見せて予想させたところ、9割の学習者が「大名行列に大名は1人」とワークシートに正しく記入できた。さらに、授業後半では、図像資料を観察してわかったことをもとに、大名行列を大人数で目立たせて「得をした人」は誰かについて、推論する活動を行った。授業での生徒の反応(表5-1,5-2)とワークシートの記述(表6-1,表6-2)をあわせてみると、図像資料に描かれていることだけを個別的に取り上げるのではなく、図像資料には直接的には描かれていない事象(例:将軍、宿の人)へも内的に関連づけて取り上げた回答が見られた。ここで特に注目したいのが、手続き2. 授業の実際で示した発問4「このように、大勢の人や、たくさんの武器で行列を目立たせると、誰が得をするのだろうか?」の意義についてである。授業の実際では「言われたよりもずっと大勢の人で、行列を目立たせているんですけど、こんな行列をすると得する人は誰でしょう?」と利害に関する関係を問うた。教師によってなされたこの発問によって、児童が、「なぜ、その行為を行うのか?」つまり行為の意図を遡及推論するアブダクション(abduction)を促す結果となり、授業終了時では、児童の声がかき消され明確な言質はとれないものの、前後の関係から「力(権威)を持っている大名だなんてみんなが見てくれる」ことを導き出したのではないだろうか。行為の意図を問うことが本単元でいえば幕府、大名家がなぜ行列を組織させる、するのかという関係の理解に結びつき、幕藩体制にかかわる本単元の目標「参勤交代の行列をりっぱに見せることで、大名自らの権威と徳川(将軍)家の権威を示そうとしたこと」達成への手がかりとなり得るという点で意義がある。十分に集中できない状況下におけるやりとりにもかかわらず、事後のワークシートへの回答において(表6-1)、27名(69.1%)の児童が、得するのは大名であることに言及できていることから示唆される。

本研究で注目した推論のひとつであるアブダクションは、演繹法、帰納法と並んで、推論の基本的な形式であり、パースによる科学的な探究の「仮説を構築する段階」を受け持つ推論と位置づけられている(赤川, 2021)。米盛(2007)は、パースのアブダクションの推論の定式化に言及し、「驚くべき事実C」を説明するために考えられた「説明仮説H」との関係について、「驚くべき事実Cが観察される、しかしもしHが真であれば、Cは当然の事柄であろう、よって、Hが真であると

考えるべき理由がある」と整理している。この米盛の整理に基づき論考すれば、本研究の図像資料の再提示時における発問4の意義としては、「将軍に命じられた数よりも大勢の人がいること」や「たくさんの武器を布などできれいに装飾して運んでいること」を、「驚くべき事実」として児童が再提示された図像資料から読み取って、その説明仮説を思考する手がかりになっていた可能性も指摘できるだろう。

今後の課題を3つ挙げる。ひとつは、本研究で示唆された児童の推論は、あくまで、参勤交代制度を複数の視点から意味づけて多面的に解釈する「萌芽」に位置づくことである。既に木村(2017)は、社会科教育学の視座から、「自らの考えの一面性に気付かせ、その社会事象には別の立場から見た考え方があることを認識させて十分に思考を深めることが大切だ(p.112)」と指摘している。このような木村(2017)の指摘に基づけば、多面的な思考をより一層深めていく過程を実現すべく、例えば、1)一連の授業の最初の場面では、学習者の不十分な解釈も自由に活発に出し合い共有する場づくりのために図像資料を活用し、2)授業終盤場面では、学んできた個別の事柄を社会のしくみなどの内容に意味づけられるように、図像資料を改めて提示し学ぶような社会科授業プランが、江戸時代以外の様々な単元でも、具体的な発問とともに考案される必要があるだろう。

2つめは、本研究で注目した発問4に対する児童の応答には、直接的にアブダクションという推論の結果としてみなせるものばかりではないことである。例えば、表6-1には、医者や宿の人など、幕府と大名家との関係の枠組に入りきらない人物をあげているワークシートの記述が見られている。しかし、一方的にこうした見解を否定するのではなく、児童同士の対話、あるいは児童によって取り上げられた人々がどのように大名家と結びついていたか問い直すことが重要である。問い直しは、大名行列が大名家にとってどのような意味があるのかを考えさせる手がかりとなり得る。関係を問う発問により、人物、事物との関係を考えざるを得ないという点で、問い直しの意義を認めたい。そして、幕府と大名家との関係への精緻化を求めたい。

3つめは、授業内にて図像資料を提示して「驚くべき事実」の情報を読み取らせたとしても、いつでもアブダクションという推論が、児童内に引き起こされると仮定してはならないことである。例えば、教育心理学研究においては、学習者の認知的葛藤を利用した教授ストラテジーに対して、「葛藤に対し否定的な態度をとったり、葛藤を回避しようとする場合」があることが指摘されている(工藤, 2011)。今後は、具体的な図像資料ごとに、どの程度の「驚くべき事実」を読み取らせることが、児童のアブダクションの促進の条件となるのかを、授業

実践を通して探究していく必要がある。

いずれにしても、図像資料に表象されている事物、人物から、行為の意図に代表される社会関係を問うことが、多様なアブダクションの促進にとって有効であるかどうかについて、今後も実践と分析、検討が必要となろう。引き続き、自身の研究課題としていきたい。

5. 参考文献

- 赤川元昭 (2021). 仮説構築の論理 白桃書房
- 池野範男・的場正美・安野功他 (2016). 小学社会 6 年上 日本文教出版
- 木村博一 (2017). 多面的・多角的な思考力」を育む社会科の授業 教育科学社会科教育 7月号 699号, 112-115
- 工藤与志文 (2001). 歴史的事実の誤認識における「ラベリング効果」について 札幌学院大学人文学会紀要, 70, 51-61
- 工藤与志文 (2011). 学習者のもつ「素朴概念」と概念変化をうながす教授方略—ル・バーと組みかえ型ストラテジー— 心理学評論, 54 (3), 312-327
- 麻柄啓一 (1993). 誤った知識を修正しやすい説明文の条件について 読書科学, 37, 34-41
- 麻柄啓一・進藤聡彦 (2008). 社会科領域における学習者の不十分な認識とその修正—教育心理学からのアプローチ— 東北大学出版会
- 文部科学省 (2017). 小学校学習指導要領解説 社会編 日本文教出版
- 佐藤淳 (2018). 「参勤交代」に関する大学生の不十分な認識について—「大名行列に大名は何人いるか」への回答の分析から— 日本教授学習心理学会第 14 回年会予稿集, 14-15
- 佐藤誠子・工藤与志文 (2020). 歴史的事象の推論に及ぼす知識間の関連づけの効果—コロンブスはどこに到着したか?— 教授学習心理学研究, 15 (1), 11-21
- 進藤聡彦・麻柄啓一 (2006). 歴史における学習者の誤った認識を修正する象徴事例の条件 教授学習心理学研究, 2 (1), 1-11
- 山内敏男・吉國秀人・柴田映里・前田浩伸 (2019). 歴史学習における図像資料の効果的な活用の実践的研究—中学生と小学生の「幕藩体制」の理解を目指して— 日本教授学習心理学会第 15 回年会予稿集, 32-33
- 山内敏男・吉國秀人 (2021). 投書 幕藩体制の理解を促進させる授業実践研究のさらなる蓄積を目指して—梶原 (2018) の投書に触発されて— 教授学習心理学研究, 16 (2), 106-108.
- 山本博文 (1998). 参勤交代 講談社
- 米盛裕二 (2007). アブダクション 仮説と発見の論理

勁草書房

吉國秀人・山内敏男・前田浩伸 (2017). 「参勤交代」に関する授業場面で見られた児童の不十分な認識について 教授学習心理学研究, 13 (2), 103-119

付記

授業実践にご協力いただいた小学校の先生方と児童の皆様にご心よりお礼を申し上げます。また、教授学習過程研究会に参加の皆様からは、貴重なご意見を賜りました。津山洋学資料館 小島徹先生は「津山藩大名行列図」についての詳細な解説をして下さいました。お世話になった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。